

現在実践している学習活動で、アップデートしたいもの(既存の取り組み)		
図画工作のアイデア出しの時点での、アイデアの共有方法を改善したい。現状では紙にかいたものをお互いの席を立てて見合う、教師が学級全体に紹介するという形が多い。低学年では、作品を見合う場面で意図的に設定しないと仲の良い友達のところにばかり行ってしまう傾向がある。ICTを使用することで、学級全体の作品を一覧することができ、様々なアイデアに触れることができると考える。		
なんのために・どのようにテクノロジーを取り入れてみたいか(視点1:協働的な学びを目指した授業の工夫)		
<u>自席にしながら、学級全体の児童のアイデアを自由に見て、参考にできるようにする。</u>そのために、<u>発表ノートのライブ公開提出箱</u>を使用し、<u>自分の見たいタイミングで友だちのアイデアを自由に見られる(友達作品との対話)</u>ようにする。始めは自分のアイデアを出す時間を確保し個人で活動する。ある程度の時間の後に、ライブ公開提出箱を使用し、友達とアイデアを共有する。そのまま自分のアイデア出しを続けたり、友だちのアイデアから得たひらめきを取り込んで、自分のアイデアに生かしたりする。直接友だちと話をしたいことがある場合は、離席をして話を聞きに行っても良いこと(友達との対話)とする。 また、<u>試行錯誤する回数を増やす</u>ことができると考える。デジタルであれば、線の色や太さを変えることは容易である。加えて、用紙を追加することも容易であり、いろいろな線を描く機会を確保できると考える。本単元において、児童の発想やひらめきを活かすためには、下書きをせずに作品づくりを行う方が良い。しかし、児童によっては、練習をしてからでないとかき出すことが難しい場合がある。そこで、言葉から想像した線をかくという遊びを学習の始めに行う。線をかくことを繰り返すことで、自信をもって活動に取り組むことができるようになると思う。また、他の児童のアイデアを知ることで、作品づくりの際により多くのアイデアを取り入れ、今までの自分にはなかった発想を加えることができ、より学習が深まるのではないかと考える。		
テーマ		対象校種・学年
せんのぼうけん(図画工作)		小学校第1学年
関連する学習体験・既習内容	目指したい子供の姿	育成したいスキル
・どんだんかくのはたのしいな ・かくことたのしいな(国語)	言葉の持つ音の響きや意味を形にすることや想像を広げて絵に表しながらお話を作ったりつくり変えたりすることを楽しむ子ども	多角的に情報を検討しようとする態度 ・情報を複数の視点から捉えようとする ・新たな視点を受け入れて検討しようとする 情報技術に関する技能

		・画像編集、ペイント系アプリケーションの操作
学習活動の概要		
本単元「せんのぼうけん」は擬音語や擬態語といった言葉からイメージする線を描き、そこからさらに想像を膨らませて作品の世界を形作っていくものである。活動の流れは、「イメージの基となる言葉を集める→言葉からイメージした線を描く→描いた線の周りの世界を想像し、自由に書き加えていく」としている。本時では「イメージの基となる言葉を集める→言葉からイメージした線を描く」の段階を扱う。		
単元計画		
1時間目（本時）	・「せんのぼうけん」にでかけることを伝え、擬音語や擬態語から思い浮かぶ線を描き、共有する。 ・画用紙とペンなどの画材を選び、線の冒険をはじめる。 ・作品の制作の様子をギガタブで記録に残しておく。	
2～3時間目	・前時に描いた線の周りの世界について想像を膨らませ、周辺の様子を書き加えていく。 ・画用紙に収まりきらないようであれば、紙を追加し、さらに冒険を続けるようにする。 ・作品の制作の様子をギガタブで記録に残しておく。	
4時間目	・それぞれの想像して描いた冒険の様子を見合い、おもしろいと感じたところを伝え合う	
活用するツール		授業準備（デバイス準備・アプリインストールなど）
☐ AI・チャットボット ☐ データ活用・ビジュアライゼーション ☒ PC・タブレット・スマートフォン ☒ その他:画材、画用紙		・ギガタブ ・発表ノート(ライブ公開提出箱) ・画材(色鉛筆、マーカーペン、絵の具、クレパスなど) ・画用紙
今回育成したい情報活用能力に関するルーブリック(視点2:本単元で育てたい情報活用能力とそれを見取るための評価の工夫)		

身に付けさせたい情報活用能力	A	B	C
情報技術に関する技能 ・画像編集、ペイント系アプリケーションの操作 (知識及び技能)(本時)	自分の思うように線の色や太さを変えながら、様々な種類の線を描くことができる。	色、あるいは太さを変えて線を描くことができる。	線を描くことができる。
多角的に情報を検討しようとする態度 ・情報を複数の視点から捉えようとする ・新たな視点を受け入れて検討しようとする (学びに向かう力、人間性等) (本時及び単元を通して)	友達の描いた線の要素を必要に応じて自分の線に取り入れることができる。	友達の描いた線を真似することができる。	友達の描いた線を見ることができる。

本単元で育成したい図工の資質・能力の評価規準		
知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ペン、クレヨン、パス、共用の絵の具などに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。	色々な形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、擬態語や擬音語などを基にかいた線から感じたことや想像したことから、表したいことを見つけ、好きな形や色を選んだり、色々な形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。	作り出す喜びを味わい楽しく擬態語や擬音などを基にかいた線から想像を広げて絵に表す学習活動に取り組もうとしている。 (本時)
擬態語や擬音語などを基にかいた線から想像を広げていい表す時の感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気づいている。	色々な形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	

活動	ねらい	児童生徒の動き	教員の支援 ◇評価
1 本単元のゴールについて知る。	本単元の見通しをもつ。	教師の提示する資料を見て、活動の見通しをもつ。	「せんのぼうけん」に出かける準備をすることを伝える。

活動	ねらい	児童生徒の動き	教員の支援 ◇評価
「せんのぼうけんにでかけよう」 (3分)			
2 擬音語、擬態語等を出し合う。(3分)	様々な線を描くための土台とする。	自分の知っている擬音語、擬態語等を発表する。	児童から出た言葉を板書する。出ない場合は例を提示する。
3 出てきた擬音語、擬態語などを基に様々な線を描く。 (5分)	自分が言葉に対してもっているイメージを線で表す。	発表ノートを使って、擬音語、擬態語から受けるイメージを線にして表す。 (ギガタブ)	黒板に書かれたもの以外にも自分の思いつく言葉から描いても良いことを伝える。 児童の端末操作の補助、支援を行う。
4 描いた線を共有する。 (5分)	自分以外とイメージを共有し、自分のアイデアを広げる。	発表ノートをライブ共有提出箱に提出し、友達のアイデアを見る。 (ギガタブ)	操作方法を大型テレビに写して確認をしつつ、面白い発想のアイデアを紹介する。
5 共有した線を必要に応じて参考にしつつ、さらにアイデア出しを行う。 (5分)	自分以外の考えを必要に応じて取り入れたり、真似したりしてより良いものをつくる。	必要に応じて友達のアイデアを参考にしつつ、線を新たに描いたり、付け足したりする。 (ギガタブ)	そのまま真似するのではなく、友達のアイデアに付け足しやアレンジを加えてみることを提案する。 児童の端末操作の補助、支援を行う。 ◇描画ツールを使用して思うような線を描くことができたか。 (情報技術に関する技能)
6 複数の画材を使ってかかれた線を見る。(2分)	画材によって描線に違いがあることを知る。	複数の画材を使ってかかれた線を見る。 (画用紙、大型テレビ、書画カメラ)	クレパス、色鉛筆、マジックペン、絵の具(筆)などで描いた線を提示する。
7 アイデアを基に、様々な画材を使って紙に線を描く。 (15分)	アイデアをさらに膨らませ、形にする。	画材を試しながら、アイデアを基に自分の線を描く。 (画用紙)	複数の画材を使用できるように準備しておく。 ◇作り出す喜びを味わい楽しく擬態語や擬音などを基にかいた線から想像を広げて絵に表す学習活動に取り組もうとしている。
8 本時の活動を振り返り、写真	次回の活動ではどのようなことをして	発表ノートに作品の写真を貼り、記録とす	児童の端末操作の補助、支援を行う。

活動	ねらい	児童生徒の動き	教員の支援 ◇評価
で記録する。次時への展望をもつ。 (7分)	いきたいかという展望をもつ。	る。次の時間にはどんなことを加えていきたいかを想像する。 (ギガタブ)	